

2015.08.31 宮脇 淳

「新たな北海道総合開発計画」中間整理に対する意見

基本的に今回の中間整理の方向性に以下の主な意見に基づき賛同いたします。

①[生産空間重視の妥当性]

東京一極集中の大きな問題は人口集中と同時に、マネジメントノウハウ、資金、情報の集中にあると考えます。同様の点が北海道内の札幌一極集中でも相対的に生じており、中間整理で指摘する北海道の「生産空間」が劣化した場合、札幌自体も現在においても脆弱な経済財政体力がさらに劣化し維持することが困難となります。中間整理で指摘する「札幌都市圏」の集積の活用も、その集積の体力は産業活動的にも強くないことを認識し、生産空間との相互対流が生じて初めて可能になると認識しています。

②[食品加工の戦略的配置の重要性]

この意味から、食の総合拠点形成に関して食品加工を強化し、付加価値を高めることの指摘は極めて重要と考えます。その際に、食品加工の高度化とともに原材料の産地に近い地域で加工しそれを結び付けることで経済的対流を生じさせることが重要であると考えます。それに伴い、北海道が独自のマネジメントノウハウ、資金、情報を獲得し活用することが重要な戦略になると考えます。

③[自治体間連携の重視]

中間整理が指摘する「基礎圏域」の概念に基づく自治体間連携（連担）の形成も、北海道のみならず日本の地方自体の持続性確保に不可欠であり、その先進的モデルケースを形成することの意義は大きいと考えます。事業連携から政策連携へと高めていく視点が不可欠であり、そのためには地方行財政の基本的仕組み等に対してもコアとなる点について積極的に提案して行く姿勢が不可欠と考えます。

④ [再生エネルギー]

中間整理で指摘するように「再生エネルギー」は、北海道の重要な資源と考えます。その際に、これまでも多くの社会的実験を繰り返しそのメリ・デメがいろいろな形で集積されていると思います。長期的視野に立って、とくに経験したデメリットを十分踏まえ克服する取り組みを社会システムにも視野を広げて展開して頂きたいと思います。

以上です。